

|     |                            |       |       |
|-----|----------------------------|-------|-------|
| 科目名 | 環境都市工学特別研究<br>Thesis Works | 科目コード | A3010 |
|-----|----------------------------|-------|-------|

|          |                              |
|----------|------------------------------|
| 学科名・学年   | 環境都市工学専攻・1年, 2年 (プログラム3, 4年) |
| 担当教員     | 環境都市工学科全教員                   |
| 区分・単位数   | 必修・14単位                      |
| 開講時期・時間数 |                              |
| 教科書      |                              |
| 補助教材     |                              |
| 参考書      |                              |

### 【A. 科目の概要と関連性】

専攻分野における特定の研究課題について、指導教官のもとで個々に研究（環境および材料・構造の分析・評価、計画案などの作成・評価）し、その成果を論文にまとめる。研究成果の学会への報告を目標とする。この科目において、一貫した研究行為を体験することにより、技術の開発・発表・適用に関する研究能力を養成する。

○関連する科目：卒業研究（本科5年履修）、環境都市工学特別実験（専攻科1年履修）、地域産業と技術（専攻科1年履修）、専攻科ゼミナール（専攻科1年履修）

### 【B. 「科目の到達目標」と「学習・教育到達目標」との対応】

この科目は長岡高専の教育目標の(B)、(D)、(E)、(F)、(G)と主体的に関わる。

この科目の到達目標と、成績評価上の重み付け、各到達目標と長岡高専の学習・教育到達目標との関連を以下の表に示す。

| 科目の到達目標                                   | 評価の重み | 学習・教育到達目標との関連                   |
|---|-------|---------------------------------|
| ① 研究目的を設定し、計画を立て、実験や調査を実施する方策を習得する        | 40%   | (D1,D2,D3,D4,E2,E3,F1,G1,G2,G3) |
| ② 研究内容を分かりやすくまとめ、文章化し、プレゼンテーションを行う技術を習得する | 40%   | (B1,B2,E1)                      |
| ③ 校外の学会発表会等での口頭発表を行う                      | 20%   | (F2)                            |

### 【C. 履修上の注意】

2年間にわたる研究なので、本科の卒業研究よりかなり高いレベルの研究成果が期待される。この点に考慮し、学術論文の学習やインターネットを利用した情報検索など、自主的で積極的な取り組みを要する。校外での発表を強く推奨する。

#### 【D. 評価方法】

次に示す項目・割合で達成目標に対する理解の程度を評価する。60点以上を合格とする。

- 定期試験（0%）【内訳：前期中間 0%、前期末 0%】
- その他の試験（0%）
- レポート（特別研究論文（主査 60%、副査 20%））
- その他（特別研究発表会でのプレゼン：20%）

#### 【E. 授業計画・内容】

##### ● 通年

特別研究は専攻科の主科目である。各研究室単位で特別研究指導教員による指導のもとに実施する。成績は、特別研究論文の内容（校外発表の実績を含む）（主査 60%、副査 20%）と全教員と技術協力会員による特別研究発表会でのプレゼンテーション（20%）で評価する。